

令和2年度 減災に係わるハード対策 代表取組事例(鹿児島県)

交付金事業，県単事業で堆積土砂の除去や竹木の伐採を行い，流下能力の向上を図った。

総合流域防災（河川）
工事（肝属川工区外）

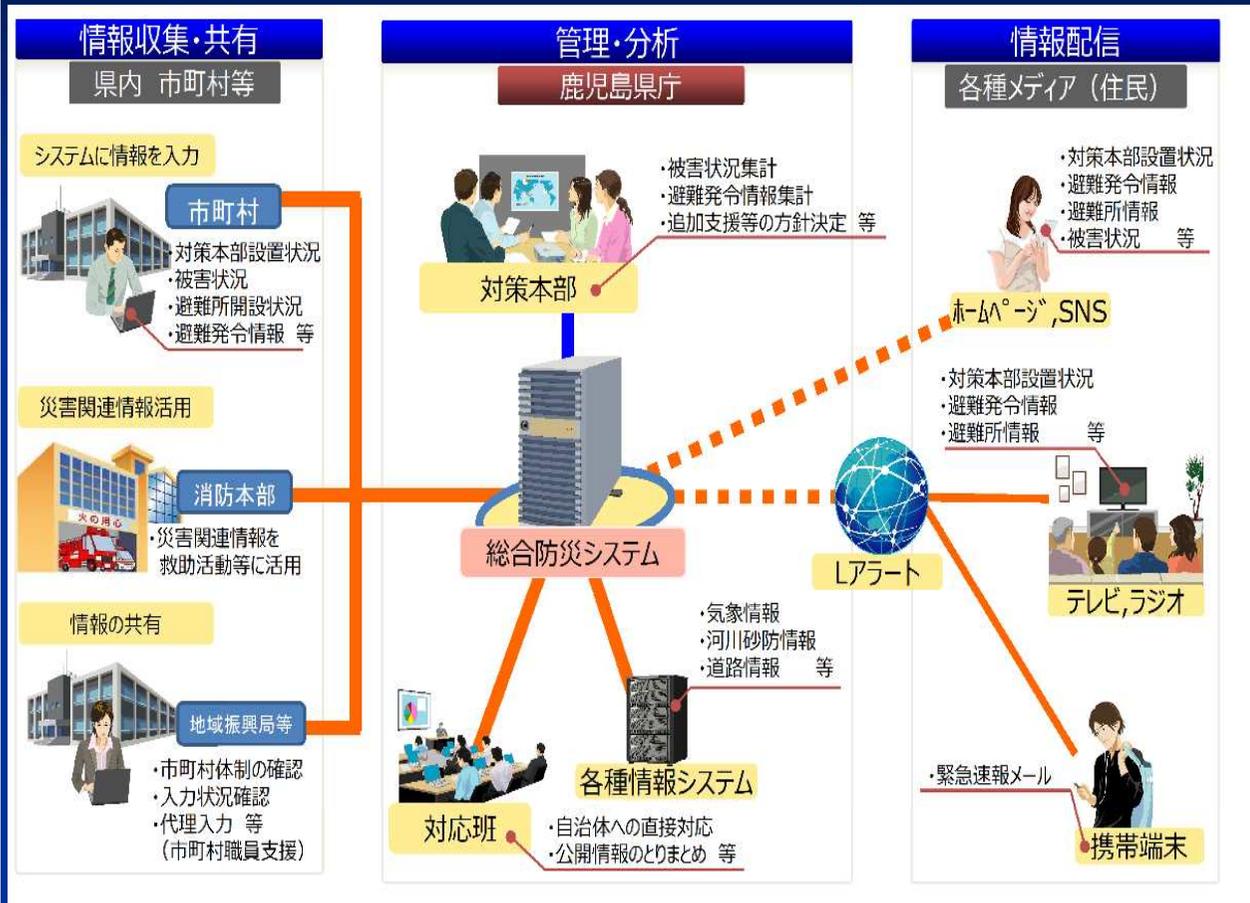


総合流域防災（河川）
工事（本城川工区）



令和2年度 減災に係る取組方針 代表取組事例(鹿児島県)

鹿児島県総合防災システムの概要図



○鹿児島県防災Web

鹿児島県防災Webは、県内市町村に発表されている気象情報や、避難に関する情報などが表示されます。



鹿児島県防災Webはスマートフォンでも確認できます。

「県総合防災システム」により、災害情報を収集・集約し、災害情報(避難準備・勧告・指示、避難所情報等)について、Lアラートによる各メディアを介した住民への情報発信を行った。

引き続き、「県総合防災システム」により、災害情報を収集・集約し、災害情報について、Lアラートによる各メディアを介した住民への情報発信を即時的に広範囲へ行う。

令和2年度 減災に係る取組方針 代表取組事例(鹿児島地方気象台)

地域の防災力向上を目指し、自治体との連携をさらに強化する取り組みの一環として、市町村における防災気象情報を効果的に活用いただくことを目的に、令和3年1月21日「気象防災研修会」を開催した。

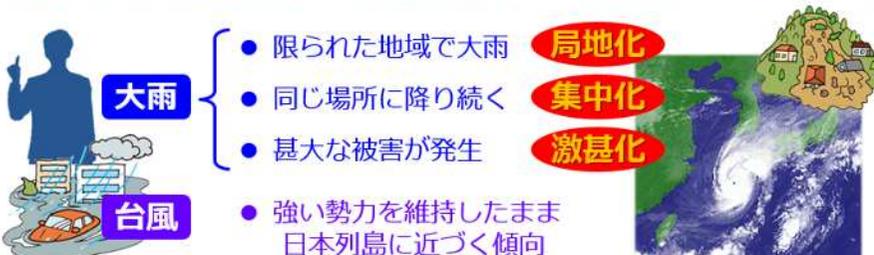
鹿児島地方気象台 令和2年度 気象防災研修会

近年の大雨の特徴

最近、雨の降り方が変わってきていると感じませんか？
報道などでも「記録更新」や「史上最強」といった言葉をよく耳にします。

大雨

- 限られた地域で大雨 **局地化**
- 同じ場所に降り続く **集中化**
- 甚大な被害が発生 **激甚化**



● 強い勢力を維持したまま日本列島に近づく傾向

台風

災害への対応において、これまでの想定や常識が通用しない事態に…
⇒ 「**新たなステージ**」に入ったとの認識で、国をあげて対応を策定

防災気象情報も新たなステージに適合するよう改善

(補) 降雨の局所化・激甚化・集中化が進み、都市型災害が増加する一方で、世界的に高温や干ばつも発生するなど、気候の極端化が進んでいます。

※ 「新たなステージ」
温暖化の進行により、危惧される極端な雨の降り方が現実になっており、明らかに雨の降り方が変化している等の状況

○研修Ⅰ：防災気象情報の利活用について
気象庁が段階的に発表する防災気象情報、今年度の大雨事例および気象予測精度ついて説明した。

【場面1】解説

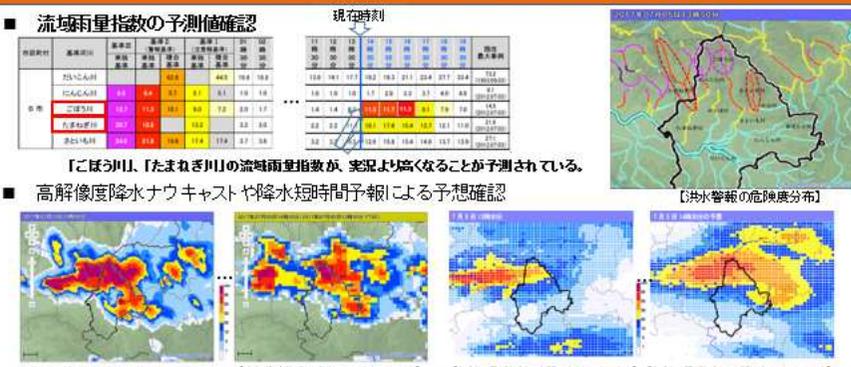
① どのような避難情報を、どの地域に対して発令すべきか？

■ 流域雨量指数の予測値確認

流域別	流域名	予測値				観測値			
		1日	2日	3日	4日	1日	2日	3日	4日
鹿児島	たぎら川	11.2	12.1	12.5	12.8	10.5	11.0	11.5	12.0
	たぎら川	10.5	11.0	11.5	12.0	9.8	10.3	10.8	11.3
	たぎら川	9.8	10.3	10.8	11.3	9.1	9.6	10.1	10.6
	たぎら川	9.1	9.6	10.1	10.6	8.4	8.9	9.4	9.9

【たぎら川、たまね川流域雨量指数が、実況より高くなる傾向が予測されている。】

■ 高解像度降水ナウキャストや降水短時間予報による予想確認



【内閣府のガイドライン「避難情報発令判断基準」】

- 「その他河川の水位が観測されていない河川では、「流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合」が、「上流で大量または強い降雨が見込まれる場合」において、「警戒レベル4、避難勧告」を発令することが考えられるとある。降水短時間予報や高解像度降水ナウキャストの予想より、「たぎら川およびたぎら川流域の上流側で1時間あたり50mm以上の雨が今後1時間程度連続見込あり」「上流で大量または強い雨が見込まれる場合」にあてはめ、「警戒レベル4、避難勧告」を発令するという判断がありえる。
- 「流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合」が、「上流で大量または強い降雨が見込まれる場合」において「警戒レベル3、避難準備・高齢者等避難開始」を発令することが考えられるとある。降水短時間予報や高解像度降水ナウキャストの予想より、「たぎら川上流で大量または強い降雨が見込まれる場合」として、「警戒レベル3、避難準備・高齢者等避難開始」を発令するという判断がありえる。

○研修Ⅱ：気象防災ワークショップ風水害編
大雨による土砂災害・洪水災害が発生するおそれがある状況において、気象台などから提供される様々な情報を参照しながら、各個人で体制の強化や避難勧告等の発令のタイミングについて検討する。

令和2年度 減災に係る取組方針 代表取組事例(垂水市)



「災害時に迅速な避難誘導ができるよう、自主防災組織等と連携した災害時要配慮者等の避難訓練の支援」の一環として、辺田地区自主防災組織及び市木地区自主防災組織の防災計画説明会(図上訓練等)を当該自主防災組織と共同で実施しました。

(写真は、辺田地区自主防災組織での説明会の様子)

市自主防災組織連絡会の設立(曾於市)

【実施内容】自主防災組織等への支援

【主な取り組み内容】災害時に迅速な避難が出来るよう、地域防災リーダーや自主防災組織の育成強化

連絡会の概要

【設立時期】令和3年5月(予定)

※R2は設立準備委員会を設置

【設立の目的】

- ①組織間の情報共有と連携
- ②自主防災組織の充実強化
- ③地域住民の防災意識の向上

【対象組織】

校区・地区公民館自主防災組織

24組織

(段階的に企業等の加入も検討)

今後の予定

年度	年月	内容
R2	R3.3	設立準備委員会
R3	R3.5	設立総会
	R3.7	第1回連絡会
	R3.9	先進地研修
	R3.11	第2回連絡会
	R4.1	リーダー研修会
	R4.2	第3回連絡会

※将来的には、防災士の認定等により、各地域における防災リーダーを育成する場としても活用したい。